

## 特集 2

# 笑顔あふれる地域のために

矢崎グループの介護事業は「地域に必要とされる施設であり続ける」という方針のもと、現在、全国8カ所で運営しています。今後の日本は、4人に1人が65歳以上となる、超高齢社会を迎えると言われるなか、高齢者が住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けるための地域づくりが求められています。本特集では、この課題に取り組む「ヤザキケアセンター紙ふうせん」についてご紹介します。

## 社会課題の認識

現在の日本における65歳以上の高齢者は3,588万人となり、総人口に占める割合は28.4%と、4人に1人は65歳以上の高齢者という「超高齢社会」に突入しています。また、2025年には、日本における75歳以上の割合が18%となり、65～74歳（前期高齢者）を含めると30%を超えることが予想されています。

高齢化が進み地域のつながりの希薄化や単身高齢世帯が増加し、高齢者の孤立も課題とされています。

そうした背景から、孤独感や引きこもりの解消として、高齢者が住み慣れた地域で気軽に集まることができる「サロン」や「コミュニティカフェ」\*と呼ばれる交流の場の設置が日本全国に広がっています。

\*「サロン」や「コミュニティカフェ」とは：ボランティアなどの地域住民が主体となって運営を行う地域交流の場です。活動内容として、体操・趣味活動・認知機能自己チェックなどを実施し、介護予防・認知症予防も行っています。

## 矢崎が提供する価値

紙ふうせんは、2004年6月に静岡県裾野市Y-CITY内に開設された介護施設です。利用者様一人ひとりが地域のなかでいきいきと健やかにくらす環境づくりをめざし、地域のニーズに柔軟に応えられるようさまざまなサービスを提供しています。デイサービスや訪問介護を行うほか、バリアフリーに配慮した日帰り旅行の企画運営や、同じY-CITY内にある保育園の園児たちとの交流、年に一度の地域交流会「紙ふうせんフェスティバル」などを行っています。最近では、「認知症サポーター養成講座」を開催し、認知症に対する理解促進を図っています。2017年度からは国内矢崎グループの新入社員が受講を開始し、2018年度は111名が受講しました。

このような活動を通じて、これまで紙ふうせんが地域の皆様とともに築きあげたネットワークを活かし、地域の皆様が気軽に集える場所として、地域の「仲間づくり」「出会いの場づくり」「健康づくり」を支える「コミュニティサロン」の運営を開始しました。

多くの「サロン」が地域のコミュニティセンターなどで開催されているのに対し、紙ふうせんは介護施設であることが特徴のひとつです。施設がバリアフリーであることや介護職員が参加していることを活かし、より多くの皆様に安心して参加していただけるサロンを提供しています。



コミュニティサロンの様子



認知機能向上ゲームに取り組んでいます



図工の授業では自由に想いを表現しました



シナプソロジーで脳の活性化を図っています

ボランティアスタッフの声

社会に恩返ししたい

私はコミュニティサロンでボランティアとして活動に参加していますが、活動のきっかけは、以前、紙ふうせんの訪問介護サービスを利用し、そこでサロンの活動を知ったことです。私は元々、「社会に恩返しをしたい」という想いで、地域で視覚障がい者のための朗読ボランティアやほかのサロンでの活動に参加してまいりました。私の「社会に恩返しをしたい」という想いが矢崎グループの理念と重なり、紙ふうせんでの活動を通じて実現できることを大変嬉しく思います。

今後も固定観念にとらわれず、参加者に寄り添いながら矢崎らしいサロン活動をしていただくことを期待します。



小西 信安 さん

利用者の声

生きがいの場

コミュニティサロンが始まった2017年当初から参加している皆様は、すっかり顔なじみの仲間です。

**阿知波さん**：「ここに来ると笑顔になれる。だから毎回参加できるのが楽しみです。」

**相澤さん**：「このサロンでは学校の授業のように1時間ごとに時間割が組まれ、音楽や図工、国語や算数などいろんな分野を楽しく教えていただいています。ここで教えてもらった知識を家庭にも持ち帰り活用しています。」

**藤巻さん**：「サロンは情報交換の場にもなっており、毎回仲間に来て話をするのが楽しみとなっています。」



阿知波 角 さん



相澤 卓子 さん



藤巻 一夫 さん

従業員の声 | 今後に向けて

紙ふうせんでは、機能訓練のデイサービスを行っており、そこで利用者様が機能を回復し、卒業することをめざしています。サロンは元々、機能訓練の卒業生の居場所づくりとして開催を検討していましたが、現在は卒業生だけではなく、地域に住む多くの方が参加してくれるサロンとなり、うれしく思っています。

介護業界において人手不足が課題となっているように、今後は従来の介護サービスでは高齢者を支えることができず、地域全体で高齢者を支えていくことが必要とされています。紙ふうせんでは、従業員や地域住民からボランティアスタッフを育成しています。ボランティアスタッフには、ゆくゆくは自分の住んでいる地域でサロンを開くなど地域の輪を広げてもらうことを期待しています。私たちも地域への恩返しができるように今後も活動していきたいと思っています。



紙ふうせん 副介護長  
新規サービス企画グループ長  
介護福祉士  
多々良 弘子